

企業名： アルフレッサホールディングス

レポート名： 統合報告書 2021

## 1. この会社が目指す姿が理解できるか

アルフレッサホールディングスは2021年6月に独占禁止法違反で有罪判決を受け、従業員も執行猶予付きの有罪判決を受けた。この件の反省として企業統治体制の強化とコンプライアンス遵守を大きく方針に入れる姿勢を報告書にて強調した。受講率93.0%のコンプライアンス研修をおこなっているほか、コンプライアンス相談窓口への通報への対応を報告書で示していることから、常に信頼のおける会社を目指していることが理解できる。

また、アルフレッサホールディングスは環境、社会、企業統治の三つを柱に経営を行い、地域に貢献しながら、従業員一人一人が自分の業務が医療機関や患者に医薬品を届けるという大きな事業の一部であることを自覚して仕事を行う会社となることを目指していることが分かる。

環境への配慮に関しては、節電やエネルギー削減を行っている。2019年と比較して2021年度のエネルギー総使用量はあまり変化がないものの、グループ全体のCO<sub>2</sub>排出量は約77000トンから70000トンに減った。さらに、「アルフレッサグループ環境方針」を策定したうえで、アルフレッサホールディングスが主にエネルギーを消費している工場や物流といった場での環境配慮に取り組んでいる。

アルフレッサホールディングスでは、グループの正社員のうち51.7%（2021年3月末現在）が労働組合に加入しており、今後は一人一人が働きやすく、多様性のある職場環境を作ることを目指していることが理解できる。

## 2. この会社の競争優位性が理解できるか

2003年に設立されたアルフレッサホールディングスは、約1680社の取引先を持ち、医療用医薬品を16万件の病院や薬局などの施設に届けている。医薬品メーカーと提携した医薬品の製造から、健康食品やサプリメントなどの卸売りなど、人々の健康に関わる業務を行う会社であり、年間売上高は2兆円を超え、全国に拠点を設けて日本の医療を支えている立場であることが統合報告書より理解できる。医薬品は需要が高く、全国で必要とされているため、全国に221の物流拠点をもち、時代やニーズに合わせた医薬品提供を行っているアルフレッサホールディングスは競争優位性があると考えられる。2021年に医療用医薬品卸売上が全国1位となったことはその点を示している。

アルフレッサホールディングスの競争優位性は、事業拡大や新薬やAIの活用の準備などに優位性を持つことを意味する。とくに、将来性のある産業として現在注目を集めている再生医療産業の市場に早く参入できることが、今後の会社の成長に大いに貢献すると考

えられる。独占禁止法に違反した後の 2021 年には営業利益が急激的に下がったが、今後は再び上がると予想されている。また、売上高は常に安定しており、市場の変化への対応力が十分あると考えられる。よって、独占禁止法違反の件によって競争優位性を失うことはないと考えられる。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

アルフレッサホールディングスはコンプライアンス重視の姿勢で、ジェンダーの格差に取り組み、環境保護を目指している。これは会社の評価向上を意味し、すでに業界内でトップのアルフレッサホールディングスがこれからも競争優位性を維持する一因となると考えられる。そして、『統合報告書 2021』には人材育成の取り組みとして、営業員には医療経営士の資格取得を推奨したり、ダイバーシティのある環境をつくったりしていることが紹介されている。さらに、5つのグループ経営方針とそれぞれ進捗状況を説明していることから中長期的な成長を目指していることが分かる。また、財務健全性、資本効率、株主還元の方針を中心とした取り組みの様子からも競争優位性に持続性があることが理解できる。さらに、人材育成については、2021年に「人事企画部」を新設し、一人一人の従業員の生産性や価値を向上させることを目指しており、これからも市場の変化に左右されずに競争優位性が持続すると予想される。

### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

アルフレッサホールディングスは「生命を支える仕事への強い使命感」「信頼を得るための高い倫理観」「未知なる領域への挑戦心」「環境変化に対する適応力」の4つを持った従業員の育成を目指している。会社全体でみると、新規事業を拡大したり、新型コロナウイルスの流行に対応したりと、挑戦心や適応力は見られる。しかし、仕事への使命感や倫理観を育成する場が少なかったために 2021年の独占禁止法の有罪判決がなされたものと考えられる。アルフレッサホールディングスは、そこでグループ研修やセミナーを徹底して行い、さらなる挑戦心をはぐくむために海外事業を増やしている。人の命と直結した事業であるからこそ信頼が重視される医療業界でシェアを拡大するアルフレッサホールディングスの、目標をもった人材育成システムに組み込まれることで、倫理観を持った自発的な人材として成長し、自身の人的資本の価値向上を達成できると思う。

### 5. 報告書にはどのような改善余地があるか

アルフレッサホールディングスの『統合報告書 2021』は、会社の基本理念や経営体制に加え、独占禁止法違反の件からどのように信頼を回復するかを紹介していた点は十分だった。また、新規事業への取り組みの詳細は会社全体の将来性を感じさせるものだった。しかし、改善の余地があることとして、現在行っている事業の充実度やこれまでの成長をより具体的に示し、そして10年単位の変化を確認・予想できるようにするために2017年以前

のデータを加えることが挙げられる。